

オンライン授業の実践を通じた一考察

—アート系授業の課題とオンラインデジタルアーカイブ活用の有用性について—

福 田 恵

A Study of Practical Online Classes:
Issues in Art-Based Exercise Classes and Usefulness of Utilizing Online Digital
Archives

Megumi FUKUDA

造形デザイン学科, 家政学部,
安田女子大学

要 旨

2020年度初頭より、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が発生した。その感染拡大に伴い、多くの教育機関で休講措置が取られ、4月になっても授業が開講できないという事態となった。その結果、学びの機会を確保するための対処法として、教育のIT化が急速に進み、日本においては特に大学の導入は目を見張るものがあった。本学でもオンラインによる授業整備が急遽施され、4月終わりという早い段階から全学的にオンライン授業が実施された。

講義ではなく芸術系演習科目を持つ筆者にとって、授業をどうやってオンライン授業で実施できるのかは大きな課題であった。本稿では、暗中模索の中で筆者の課題となった「1 感性情報」「2 視覚情報」「3 連帯感」3つの「伝達と共有」に着目した取り組み、並びにその利点や問題点を示す。また、主にアメリカの機関が提供する膨大な芸術系オンラインコンテンツについて記述し、その有効性と今後の活用方法を示す。

キーワード：オンライン授業、デジタルコンテンツの活用、感性情報の伝達と共有、視覚情報の伝達と共有、アート・デザイン

はじめに

オンライン授業の形態は大きく分けて2つある。予め教員が授業を録画・編集してサーバ上にアップロードしておく『オンデマンド型』と、ライブで配信する『ライブ型』があるが、本学ではサーバダウンの危険回避のため、前者の『オンデマンド型』による授業形態が推奨された。

これは本学だけの問題ではなく、国立情報学研究所のホームページ上でも、日本全国の大学教員に対し、ライブ配信による授業を控え、通信量（データ量）が極力小さくなるような工夫を呼び掛けている¹⁾。

従来の対面授業では、授業冒頭に課題説明、およびレクチャーを行い、その後、適宜課題に添った絵具や道具を利用しながらの実習に入る。学生たちは個別のアイデアと異なった技術力・趣向を持っているので、一意的な指導は行えない。その為、実習の間、学生達とは一対一の関係で個別にアドバイス、及び質疑応答を繰り返す。つまり、『オンデマンド型』ではなく『ライブ型』が適した授業形態である。

また、授業の終わりには他学生による作品の鑑賞会やプレゼンテーション、および講評会を行うことによって、色や形といった視覚情報で構成した自らの作品の言語化によって思考力・発想力を鍛えると共に、作品のクオリティーの良し悪しだけではなく、自分とは異なる他者の考え方やアイデアに触れることも重要であると考えている。

1 オンライン授業における「感性情報」の伝達と共有

上述の通り、この度のオンライン授業は開始当初、回線保護の目的で授業のライブ配信を制限していたが、それによって最も困難だったのは質感や量感などの感性情報の伝達であった。

オンデマンドによる映像配信で、できるだけすべての学生が平等に情報を受け取るためには、現状では情報の精度を上げることしかない。例えば筆者は、一冊の本を紹介する場合、表紙から背表紙、紙の質感や厚み等の詳細な情報を、できるだけ隅々まで動画に記録し、言語化しながら動画作成に心掛けた。しかしながら、細微な情報を削ぎ落した図像からは、質感等の物質を構成する様々な情報がどうしても伝わりにくい。また、長さや量感といった量的情報も、撮影時のカメラと対象との距離によって変化するので曖昧になる。さらに、受信者側がその図像を投影するモニターの大小によってもその量的情報はさらに可変である。

これらは本来、対面授業であれば何の問題もないことだが、オンラインになると非常に困難に感じた。現状において考え得ることは、授業で使用するモチーフを予め全ての学生の自宅に送付することである。ただし、相応の準備と到着にかかる期間が必要であり、そもそも授業ごとに大量に物質を送付する行為は感染症対策としては矛盾があり、好ましいとはいえない。

2 オンライン授業における「視覚情報」の伝達と共有

それに対し、オンライン授業では通常の対面授業と比べて視覚情報の伝達には多くの利点が見いだせる。デザインやアートは主に視覚を通して知覚される情報である。そのことから、絵画や彫刻などはビジュアルアート、その応用としてポスターやコマーシャルといった情報を伝達するためのデザインはビジュアル・コミュニケーションと称されることがある。

例えば、ウェブサイトリンクの共有である。ウェブ上には、美術館や専門誌などが提供する既存の膨大な資料がアーカイブされている。通常、情報伝達は文字や言葉などの言語情報によって行われるのが一般的だが、視覚芸術分野ではその言語情報に代わり、図像や動画といった“作品”が最終的な情報伝達形態となる。それがいわゆるビジュアル・コミュニケーション（視覚情報を通じた意思疎通）であるが、その文献にあたる図像や動画などの研究資材が、書籍やDVDで入手が困難な例は多い。

2.1 Youtubeをプラットフォームとするアート系デジタルコンテンツ

近年、特にアメリカの美術館はコロナ以前の早い段階から、オンラインによるアーカイブ化と公開が進められて来た。様々な美術館や組織がYoutubeに独自のチャンネルを開設し、動画配信を行っている。内容は主に、美術館で開催される展覧会の広報用プレビューを始めとし、様々なレクチャーのドキュメンテーション、企画者であるキュレーターや企画参加者であるアーティストへのインタビュー動画などである。他には、演劇やダンス、パフォーマンスや音楽といった公演会のドキュメンテーションも公開されており、貴重な映像も多い。それらの多くはDVDや書籍化される類のものではないとしても、極めて先進的な取り組みを行っているケースも散見出来る。このようなプログラムの存在や取り組みを知り、世界中の多種多様な表現や価値観に触れ、新鮮な驚きを現地に行かずして得ることのできるこれらのコンテンツは、特に新型コロナウイルス感染症の流行下では大変貴重だといえる。

また、音楽、演劇、パフォーマンスなどのタイム・ベースド・アートは、本来、作家と観客が現地と一緒に空間で体験することに重点が置かれている。筆者は、世界各国の多種多様な展覧会をはじめ、演劇や音楽、オペラやコンテンポラリーダンスなど、個人的な興味関心から様々な公演会を訪れ、その場で体験することで得られる一体感、視覚や聴覚だけではなく、光・温度・匂いなどといった様々な知覚機能を伴って鑑賞する重層性や共鳴感を体験してきたが、それらは決してオンライン上で正確に体験出来得るものではない。この点においては、オンラインコンテンツとして、上述した感性情報の伝達という課題があるといえる。

2.2 YouTubeでコンテンツを配信する主要な組織

以下に、YouTubeを利用してオンラインコンテンツを配信する著名な美術館、及び組織を、概要とともに記載する。以下に記す全ての概要は、引用文献に示すホームページ（YouTubeチャンネル）の概要ページから引用した英文を、引用者が翻訳・要約・必要に応じて補足説明したものである。

Art21 (アート21)、アメリカ

ART21は、現代美術に関する様々なフィルムを制作している非営利団体である。PBS放送で放映するテレビシリーズ「Art in the Twenty-First Century (21世紀のアート)」は、エミー賞へのノミネート、並びにピーボディ賞を受賞した²⁾。

Art Basel (アート・バーゼル)、スイス

1970年より続く最も著名なアートフェアのひとつ。スイスのバーゼルをはじめ、毎年3つの大陸（ヨーロッパ、北米、アジア）で開催されており、アーティストと彼らパトロンとを繋げる役割も果たしている³⁾。

Guggenheim Museum (グッゲンハイム美術館)、アメリカ

ユネスコ世界遺産であるFrank Lloyd Wright (フランク・ロイド・ライト) による建築が有名なニューヨークの美術館。建築空間と芸術が融合する場となっている。世界のアートに関する様々な映像や、behind-the-scenesでは当該美術館で開催される展覧会の裏舞台を公開している⁴⁾。

Hammer Museum (ハマー美術館)、アメリカ

芸術が、私たちの生活や人生を照らし、多大な影響を与えるという考えに基づき、その可能性を拡張する試みを行う芸術機関。UCLA（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）に隣接し、展覧会プレビュー以外にも講義や教育的プログラムなどを公開している⁵⁾

The Museum of Modern Art (ニューヨーク近代美術館)、アメリカ

ニューヨークにある近代美術館。通称MoMAとして知られる。現代における芸術が過去の偉大な作品の価値に匹敵することを証明するという創立者の信念を受け継ぎ、展覧会企画だけではなく、絵画、彫刻、ドローイング、版画、写真、建築、デザイン、メディア、パフォーマンスなど、20万点を超える作品群の収蔵、紹介を行っている⁶⁾。

New Museum (ニュー・ミュージアム)、アメリカ

1977年に設立された、ニューヨークにある現代美術を専門とする唯一の美術館。国籍を問わず、現役で活躍するアーティストに関する展示や情報、ドキュメンテーションなど、様々な情報を配信している⁷⁾。

Serpentine Galleries (サーペンタイン・ギャラリー)、イギリス

ロンドンのKensington Gardens（ケンジントン公園）内にあるサーペンタイン・ギャラリーの公式YouTubeチャンネルでは、アーティストとのインタビューや、タイムラプスによる展示会場の記録映像などを公開している⁸⁾。

Tate、イギリス

16世紀から現代までのイギリス美術、並びに国際的な近現代美術を紹介するロンドンの美術館。Tate YouTubeでは、アーティストとのインタビュー、展覧会プレビュー、ライブパフォーマンス等、世界中のアートに関する様々な動画が視聴できる⁹⁾。

2.3 書籍のデジタルコンテンツ提供

2014年、芸術や写真、考古学や建築などの書籍を出版するGetty Publicationsは約250タイトル（現在300以上）の書籍の無料公開を開始した。このオンラインライブラリーでは無料で書籍を閲覧可能であり、購入することも可能である¹⁰⁾。

また、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による外出自粛を機に、日本でもオンライン上の様々な取り組みが散見されるようになった。美術手帖を発行する美術出版社のサイトでは、およそ1か月にわたり、1年間分のバックナンバーの無料公開が行われた（2020年6月14日で終了¹¹⁾）。

2.4 オンラインビューイング、バーチャルツアーによる美術館訪問

その他、実際に訪問することが難しくなったことから、多くの美術館、博物館によるオンラインビューイングやバーチャルツアーに関心が集まった。Googleが提供するプラットフォーム「Google Arts & Culture」ではGoogle Mapで浸透したストリートビュー機能を利用し、イタリア・フィレンツェのウフィツィ美術館、イギリス・ロンドンのテート・ブリテン、ロシア・サンクトペテルブルクのエルミタージュ美術館、ドイツ・ベルリンの旧国立美術館や¹²⁾、国内では、東京国立博物館、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、東京富士美術館、三重県立美術館、三

重県立美術館など¹³⁾が参加しているなどGoogleのパートナーである世界の名だたるミュージアムが所有する美術品を、まるで美術館の中を回遊しながらバーチャルで鑑賞体験できる。

3 連帯感の共有

通常の学生生活では、授業による学びに限らず、学生たちは友人間で多くの情報を共有する。自らが求めているような情報でさえも日常会話の中で変則的に受け取る。それらはお互いの存在を認識する機会であり、精神的な安心材料や、制作活動を行う上でも貴重なインスピレーションとなり得る。ところが、オンライン授業という限られた空間・時間の中では、これらの変則的なコミュニケーションが生じにくい。そのため、学生達が孤立を感じたり、実際に孤立化してしまうのではないかといった懸念があった。

東洋美術の中で、絵画と詩文が組み合わされた書画がある。書画もまた、視覚美術の一つとして考えることが出来るが、筆者は絵画を写真、詩文を日記に置き換える形でこれを応用し、「写真日記」という企画を実践した。

写真1枚と、写真に関係する短文のテキストを、毎週1回Google Classroomに設置のクラスに投稿をするという単純なもので、いわば、twitter、Instagram、Facebookなどと内容は同等といえるが、SNSのオープンエリアではなく、クラス内だけのクローズドな空間で行うことで一種の連帯感が生じた。授業や学内での学生生活では見られないクラスメイトの側面を垣間見ることのできる機会でもあり、「楽しい・(次回が) 楽しみ」という前向きな意見が多く見られ、6月初頭で対面授業に切り替わった後でも学生たちの希望により継続することとなった。

もう一つ、筆者のねらいとしては、造形デザイン学科の学生にとっては少なからず創造性を伴う行為であり、写真技術や文章力の向上につながるため創造欲を刺激するだろうと考えた。加えて、投稿を行うためには常日頃から素材になりそうな事柄について注意を払う必要がある。そのため、「観察力」が自ずと試され、養われる。

特に、外出の出来ない限定的な環境の中でアイデアを探すのは、コロナ前の自由に移動できる状態よりも各段に困難だったはずだ。その制限ある生活空間の中にも何かしらの気付きがある、そのこと自体を発見する。それは、表現行為の始発点とも言うべき原点であると考ええる。

4 考 察

この度の全国的・全世界的な新型コロナ感染症拡大により、オンライン授業は急激に浸透した。現在9月となったが未だ収束しておらず、本学では、後期は対面授業で行われるものの、Google Classroomによるオンライン授業体制も維持しつつ、ハイブリッド型の授業形態で実施される。今後、仮に感染症が収まったとしても、継続してオンライン授業は行われ、オンラインと対面、それぞれの長所を掛け合わせたハイブリッド型の授業形態が一般的に定着する可能性は十分あると考えられる。

オンライン上には様々な優良コンテンツが提供されており、膨大な量の情報がアーカイブされている。従来の対面授業内では学生が授業を受けながらオンラインであるという状況は想定されていない。時間的な限界から、引用する場合には予め時間をかけて情報を精査し、多くを削り取って編集し、限定して伝達する必要があった。しかしながら、オンライン授業上ではウェブペー

ジのサイトへワンクリックで共有ができるのは利便性が高い。また、学生にとっては授業時間内での閲覧が出来なかったとしても、例えば自らのブックマークに保存していつでも参照することができる。それは、学生の自主的・主体的な学びを誘発するためのいわば種まきとして機能するのではないかと考える。

5 課 題

筆者は、芸術系演習科目の授業では、視覚情報の伝達・共有には多くの利点があると考えますが、反対に、非常に重要である質感や量感の情報伝達は極めて難しい。そこにはまだ課題が残るが、今後、質感や量感をオンライン上で共有できる新たな技術やサービスが開発・普及されることを期待したい。

また、本稿では触れられなかった、教育目的のオンラインプラットフォームは多数存在する。現状では、国外企業によるサービスや、コンテンツも英語圏の提供者によるものが多く、より深く理解するためには今後もさらなる研究が必要である。そして、オンライン、対面問わず優れたコンテンツや情報は速やかに学生に提供し、芸術分野の質的向上に繋げたい。

引 用 文 献

1. 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 (NII) ホームページ, nii.ac.jp/event/other/decs/tips.html, データダイエットへの協力のお願ひ: 遠隔授業を主催される先生方へ (2020年9月9日)
2. Art21ホームページ, (2020年9月9日) https://www.youtube.com/channel/UC6Z_Gbfo7xwSms6Ahkv-m3Q, 原文表記は以下の通り: ART21 is a celebrated global leader in presenting thought-provoking and sophisticated content about contemporary art, and the go-to place to learn first-hand from the artists of our time. A nonprofit organization, ART21's mission is to inspire a more creative world through the works and words of contemporary artists. ART21 produces several film series, including the Peabody award-winning, Emmy-nominated, PBS-broadcast television series "Art in the Twenty-First Century".
3. Art Baselホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/channel/UCBtGVupR621ytCdSG-z7jqQ>, 原文表記は以下の通り: Since its debut in 1970, Art Basel has become the Modern and contemporary art world's premier platform for bringing together artists and their patrons in a way that is both engaging and personal. With annual art shows sited on three continents - Europe, North America, and Asia - Art Basel is the only art show with such global reach.
4. Guggenheim Museumホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/channel/UChrvkZPNMeC6nwMzoD6Gj6w>, 原文表記は以下の通り: Radical art and architecture meet here. Frank Lloyd Wright's masterpiece is part of a UNESCO World Heritage Site. On the Guggenheim Museum's YouTube channel, discover videos about art and artists from around the world, and go behind-the-scenes.
5. Hammer Museumホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/channel/UCjcoulXgFyxJgAPbVE6dlg>, 原文表記は以下の通り: The Hammer Museum is a unique, cutting-edge arts institution that explores the capacity of art to impact and illuminate our lives.
6. The Museum of Modern Artホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/momavideos/about>, 原文表記は以下の通り: The Museum of Modern Art is home to over 200,000 artworks, comprised of painting and sculpture, drawings and prints, photography, architecture, design, media and performance. Our goal is to introduce you to as many artists and artworks of our time as possible

- to make the case-as the Museum's founders believed in 1929-that the art of our time rivals in its greatness to that of any previous era.
7. New Museumホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/user/newmuseum/about>, 原文表記は以下の通り: New Art. New Ideas. The New Museum is the only museum in New York City exclusively devoted to contemporary art. Founded in 1977, the New Museum was conceived as a center for exhibitions, information, and documentation about living artists from around the world.
 8. Serpentine Galleriesホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/c/SerpentineGalleriesUK/about>, 原文表記は以下の通り: Official YouTube Channel of Serpentine Galleries, Kensington Gardens, London. Featuring interviews with artists, architects and time-lapse footage from the Serpentine Galleries Pavilions.
 9. Tateホームページ, (2020年9月9日) <https://www.youtube.com/channel/UC2isDeIrlNSrgGYE4Np3PA>, 原文表記は以下の通り: Our mission is to increase the public's enjoyment and understanding of British art from the 16th century to the present day and of international modern and contemporary art. Tate YouTube brings you videos about art and artists from around the world. Subscribe for interviews with artists, exhibition previews, celebrity art fans, live performance art and more.
 10. Getty Publications virtual library. ホームページ (2014) <http://www.getty.edu/publications/virtuallibrary/index.html>, (2020年9月9日)
 11. 美術手帖ホームページ, <https://www.bijutsu.press/4343/>, 自宅でアートのいまを知ろう! 雑誌『美術手帖』バックナンバー無料公開, (2020年5月15日)
 12. 美術手帖ホームページ, <https://bijutsutecho.com/magazine/insight/21582>, 名作を自宅で鑑賞。世界の主要美術館・ギャラリーが実施するオンラインビューイング&バーチャルツアーまとめ (2020年3月28日)
 13. 美術手帖ホームページ, <https://bijutsutecho.com/magazine/insight/21425>, 休館中はオンラインで美術館へ。ストリートビューで見られる美術館リスト (2020年2月28日)

[2020. 9. 17 受理]

コントリビューター: 染岡 慎一 教授 (造形デザイン学科・家政学部)

